

## 議 事 録 (要旨)

配布先	主催 企画課	No.
議事録名 第3回佐久市CCRC検討会 作成日 平成27年9月17日		確認 記録者
日 時	平成27年9月16日(水)	開催場所 議会棟 全員協議会室
		時間 16:00 ～ 17:35
出席者	委員：竹尾恵子、雄谷良成、甲斐一郎、小林明 オブザーバー：市長 柳田清二、長野県企画振興部地域振興課 課長補佐兼活力創出係長 柳澤祐史 主任 伊藤義彦 事務局：企画部長 矢野光宏、企画課長 佐藤照明、土地調整係長 羽毛田邦治、土地調整係 畠山武尚 地域局長 依田猛、地域整備室長 遠藤修、室長補佐 市村志郎	委員 出4人 欠1人
提出資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・資料1-1 佐久市CCRC構想(案)</li> <li>・資料1-2 佐久市CCRC構想(案) 説明・概要版</li> <li>・資料2 臼田まちづくり事業</li> </ul>	
≪ 1 開会 ≫ ≪ 2 市長あいさつ ≫ ≪ 3 会議事項 ≫ (1) 佐久市CCRC構想(素案)【資料1-1】について 事務局より説明 <質疑応答> 委員            14ページで、「生涯活躍のまち」運営法人を立ち上げて、そこが全体を統括していくとなっているが、この「生涯活躍のまちづくり」自体を、この運営法人に任せるといふ考えなのか。それとも、「サ高住」の運営法人ということなのか。  事務局        イメージとすれば、基本部分の計画は市で作成し、その計画に基づいて、公募するなどして運営法人を選定する。その運営法人が、「サ高住」を整備し、運営も行う。12ページに記述してあるが、ハード面や人材面については、運営法人にお願いしていきたい。		

委員	本来、市でやるべき部分を丸投げしているように思える。「健康のまちづくり」というのは、本来、市でやるべきことである。民間でできることは、民間を使うということであり、運営主体を民間にするという構想には疑問がある。サ高住の運営やプログラムの提供は、民間で良いと思う。佐久には、関連の事業者はたくさんいる。全体の統括は、もっと市の関わりを強くした方が良いと思う。
事務局	全く市が関わらないということではない。ただ、構想ができて、この後、臼田地区について国や県と連携して具体的な計画を作り、民間の運営主体を選ぶ。地元でも組織を立ち上げて、市と地元と事業者のトライアングルで進めていく。行政ができる部分には限界があるので、そこをどうやって補完し合っていくか検討をしていく。いずれにしても、丸投げするというわけではない。
委員	地方版総合戦略のテキストがあり、その中で、計画自体は市が作り、運営主体は民間にやっていただくという形でないという形になっていないと交付金が出ないという仕組みになっている。本来、この機能は、市が担うべきものではないかという意見は全国あちこちで出てくると思う。ただ、従来の交付金がうまく利用されなかったことや、PDCAを回してやるというのが、なかなかうまくいかなかったというのがある。今回、先行交付金の応募は出していると思うが、その中で、KPIという達成の指標というのがある。それをもとに計画が達成されているかというのをチェックされる。その運営主体をチェックするのが市である。全体の計画は市で作り、その中で、民間のマインドで挑戦してもらい、成果を上げていくというのが今回の手法である。裏返して言うと、この事業がうまくいかなかった場合には、きちんと市が責任を持ってカバーしなければいけないということである。住民と運営主体と市というトライアングルがうまく噛み合わないとうまくいかない。
委員	個々の事業を民間に任せるとするのは良いと思うが、全体の運営について、市の関わり方というのはもう少し詰めた方が良いと思う。
事務局	前回の委員の発言にもあり、9月の議会の答弁でも答えているが、地元の皆さんが主体となるのが事業成功のポイントである。ただ、信用という部分では、行政が入ることによって得られるということもあるので、おっしゃるように連携を取ってやっていきたいと思う。
座長	「公」があまりにイニシアティブを取り過ぎると、民間や住民が言われたからやるという姿勢になってしまうという話があったが、そのバランスというのは非常に難しいと思う。この構想を出して、うまく民間の事業者が入ってくれば良いが、その辺が難しいのではないかな。

- 委員 やはり、みんなが同じ方向を向かないと難しいと思う。上から下という関係でなく、対等な関係で、トライアングルが連携できることが大事である。「活性化」という意味では、民間の面白い発想を利用するのが良い。住民も当事者として、それに意見を出す、市もそこに入りコンセンサスを得ながら進めていく。バランス感覚というのは非常に大事である。
- 市長 「サ高住」は、民間事業者が運営していく訳であるが、「生涯活躍のまち」は、民間事業者が作り上げていくという印象ではない。「まちづくり」ということに関して、佐久総合病院は、70年前に臼田でわずか6床から始まっており、そこから臼田の特徴ということで色合いを出してきた。例えば、上田市に信州大学繊維学部があり、そこで活動をし、影響を与えたりする訳であり、そこから、その「趣」というものが出てくる。そういった中で、佐久市で「サ高住」ができたり、この活動を始めたこと、で、「健康意識が高い」、「生涯活躍ができるのではないか」という「趣」が出てくる。その牽引になるような要素があり、「生涯活躍のまち」の色合いが濃い地域になっていけば良いと思っている。それには、市が、自治組織が、病院が進めているということ、また、各機関が密接に連携しているということ、それにより、「風土」が生まれてくるのではないかと、そういったことを期待している。
- 座長 非常に重要な視点である。しかし、単に「民間に」と言っても、そう簡単にはできない気もする。小林委員がおっしゃったように、バランスを取りながら、ある程度市がリーダーシップを取らないと進まないのではないかと。
- 市長 リーダーシップを取りながら、委員が言うように、住民の自発的意欲を發揮していただけるような気運の醸成、コンディションづくりということはやっていきたいと思う。
- 座長 なかなか難しいことではあるが、ご指摘いただいたように、うまく連携していくことで成功に結びつくと思う。
- 委員 民間を活用する時、民間は、何かインセンティブがないと動かない。住民もそうだと思う。例えば、健康活動やボランティア、健診を受けた、スポーツ施設を利用したなど、健康づくりの活動に対して、市がポイントを付けるなどして、そのポイントを優待券や割引に使えるといった仕組みを作れば、それぞれの事業者が、それぞれの得意分野で活動を始めると思う。佐久には健康関連の事業者が多く、そういったインセンティブがあれば事業者も入ってくると思う。そういった仕組みを作るなど、特徴を持たすということも必要だと思う。「世界最高健康都市」という構想は非常に良いと思うが、本当にそうなのかというのは、若干疑問がある。確かに高い所に位置していると思うが、最高ということではないと思う。最高を目指すということ

であれば、他とは違う特徴というのを打ち出していくべきである。長野県内はどこも「健康で住み良い」ということを打ち出しており、何か「尖った施策」をやらないと差別化は難しい。

座長 佐久市は、健康という面では、長野県の中でもトップクラスの方である。ただ、他市町村に比べて、佐久市の方が良いということをおまりに出し過ぎるのもどうかというのもある。「佐久市らしさ」という特徴を打ち出していくことも重要ではないか。

委員 事業者は、とりあえず施設の運営がうまくいってればよい訳だが、この構想ではそれに付け加え、「まちづくり」という面で必要になることが大きいと思う。それを事業者がうまくできるかどうかということが重要である。私は保健という部分しか分からないが、保健補導員ということでは、長野県や佐久市には非常に素晴らしい組織がある。昔は、各地域から代表が出て、地域の状況について検討し合うなど、よく機能していた。この地域には、そういった伝統があり、学習や文化やボランティアなど、健康を含む様々な活動について、住民組織を使い、移住してきた方とも一緒になってやっていくような組織作りができれば良いのではないかと思った。また、一点質問だが、「運営推進法人」が主体ということだが、全てを任せるということではなくて、運営推進協議会のようなものを作るのか。

事務局 現在、9月定例議会で予算要求をしているが、臼田地区で地元の皆さんを中心に検討会や協議会というのを立ち上げて、地区の具体的コンセプトはどうするか、「運営推進法人」に何をやってもらうのかということ、受け入れ体制についてなど、課題を整理していく予定である。

委員 新しく来た方を受け入れていただくという気になってもらわないといけない訳だが、それもさることながら、今住んでいる方が、自分の興味・関心があることに取り組みやすい環境にすることも重要な方策である。新しく来た人も、その中に組み込んでいくというのが良いのではないかと感じた。

座長 移住を検討している者からとすると、「年を取っても、自律的に活動することができる」ということで記載されていると、惹きつけられるものはある。また、具体的なモデルというのを示してもらおうと、理解しやすいのではないかと思う。単身者の場合もあれば、夫婦で来られる場合もある。年齢もそれぞれであるが、いくつかのケースをモデルとして示してあると良いと思う。もう一点は、「終の棲家」ということで来る方もいると思うが、お試し居住のようなことも、モデルとして出していくと良いのではないか。そういったことが示されていると敷居が下がるような気がする。その土地への来訪が積み重なって定住しようという気になると思う。また、元気なうちに移住してきても、最終的に年を取って動けなくなってしまった場合に、「老

人ホームに入り世話をしてもらえるのか」、または、「大きな施設でなく、地域に根差した少人数のケアハウスのようなものがあったりするのか」ということが見えた方が良いのではないか。農村型では、少人数のケアハウスのようなものの方が、地域の人との連携も取れて良いのではないかという気もする。

委員 私は色々な会議に呼ばれて、さまざまなプランを見るが、この構想の中で、行政としてここまでの骨組みを作っているというのは、素晴らしいと思うし、よく勉強されていると思った。前回、「市民が誇りを持てるようなまちづくり」という部分をもう少し色濃くしたらどうかと発言したが、今回の構想には、その辺が盛り込まれている。現時点で、ここまで進んでいる自治体は他にないのではないかと思う。そして、ここから先というのが重要であり、住民にとっておもしろい部分である。構想をここまでの内容で止めてあるというのは正解だと思う。よくあるのは、ここから一歩前に進んで、モデルケースという所までいってしまうと、住民は、おまかせということになってしまう。本当はもっと書き込みたいという部分があったと思うが、よくここまでで抑えたというのが、率直な感想である。

事務局 あくまで「構想」なので、あまり色を染めてしまうと、これで方向が出てしまうということが無いよう考慮した。臼田の色というのもあると思うので、そこは、今後立ち上げる組織の中で、協議して想いを描いてもらった方が良いと考えている。地元住民に、あまり受け身になられてしまってもいけない。

委員 この先の進め方まで考えられて作り込みをしてあるということが見て取れるので、驚いている。普通は作りこみ過ぎてしまうものである。ここから先を「農村型」と「都市型」という2つに分けてやっていくという方向性も良い。ここから先、住民を交えてやっていけば盛り上がってくると思う。構想としては、余計な贅肉が付いておらず、非常にレベルが高いプランだと思う。そして、次は、「この先進めていく上で、どういったことが問題になってくるか」ということがあるが、私たちが実際に直面した問題についてもお話したい。ちなみに、佐久市には現在、何か特区というものはあるのか。

市長 1つある。農業と旅館業のマッチングというのを特区でやっている。

委員 それは、「民宿で農業も体験できる」ということの拡大解釈ができるというものか。

市長 そうである。

委員 CCRCをやっているという時、例えば空き家を使って、何かおもしろい施設を作りたいと思っても、建ぺい率や容積率などで引っ掛かったりする。何か建築しよ

うとする時も、「道路センターから2mセットバックを取らなければいけない」などの道路法や「耐火構造にしなければいけない」といったことも出てくる。そういったことがあると、空き家を使うのはできないことがある。また、例えば多世代が交流する場所を作ろうとした時、「高齢者デイサービス」や「障がい者の生活介護」というのは決まった場所でやっていないといけないと法律で決まっている。高齢者が「高齢者デイサービス」の場所でなく、「障がい者施設」を使ってサービスを行ってはいけないとなっている。そうすると、一緒に使えないので、「ごちゃまぜ」ということが出来ない訳である。CCRCを進めていくにも、そういった課題を制度的に突破していく必要があるが、それは民間では難しい部分がある。そういった部分を、市が積極的に取組んでいくと、事業者や住民も頑張れると思う。私達の事業で、石川県某市で、「空き家3軒をつないで改修して使いたい」ということがあったが、それらをつなぐと容積率も変わってしまって、結局は作り直さなければいけないということがあった。今度は、そういったことを先回りして手を打ちたいと思っているが、佐久市においても、検討して取り組んでいった方が良いと思われる。この某市も、現在は人口が減少しており、伝統の漆塗りの売り上げも激減している。この漆塗りというのを、まちの色々な所に使っていこうと考えている。CCRCのまちづくりでも、漆を使ったまちに再生していこうという話が出てきている。そういった時、さまざまな法律のハードルがある訳だが、市が頑張っけて乗り越えていくという姿勢を見せてもらえると、我々とするとは非常に勇気を持って事業に取り組める。そういったことが3者それぞれの役割分担ということではないか。それぞれがやれることは違って、やれることをやっていくことが大事である。特区申請なども一つの手段だと思う。市としては、CCRCを進めていくのに、引っ掛かりそうな部分をつぶしていく作業をされても良いと思う。先ほど、漆塗りの売り上げが激減していると言ったが、外国人が売ったりすれば、かなり売れるということもある。そういった違う目で漆塗りを見たりすることができる。そういう人を連れてくるのはどうかという話もあるが、佐久市では、外国人の移住というのはどのくらい居るのか。

市長 外国人の移住という形ではないが、外国人登録とすれば1200人程いる。中国、台湾、韓国、ブラジルなどが多い。本市への外国人の転入とすると、研修生ということで、農業では労働力の確保で季節的に来る方が多い。土木などもある。

委員 こちらにいる間に、「地域の人とうまく関われない」といったことや、「言葉の問題がある」など課題があると思う。地域の住民には賛否があると思うが、CCRCの枠組みの中に、そういった人達を取り込んで、ずっと住み続けてもらうということも良いのではないか。疎外されやすい人達が、うまく取り込まれている地域というのは、活気があって癒される場所であると思う。佐久市としては、これだけの構想ができていくので、後は、色々なものをつなげていくということをするれば、良いま

ちになると思う。一歩進んだところに踏み出していくのが良いと思う。うちには3つCCRCのモデルがあるが、サステナブル（持続可能）な施設かどうか見せてほしいと言われ、資料を内閣府に提供した。収支が出されたのは、うちのモデルだけである。収入をうまく出して、核をうまく運営していくという技術の問題である。「高齢者」・「障がい者」・「児童」といった福祉の核とレストランなどの商業的な組み合わせを取り入れていくことにより、継続性のあるものにしていくことが重要である。ここから先は、そういった技術が必要になると思っている。

座長　　そういう意味では、構想(案)とすると、これで良いのではないかということであり、これを基に、次のステップに進んでいくべきである。特区という話があったが、CCRCの特区ということになるには、もうこれで十分ということなのか、それとも、もっと地域住民を交えた議論が必要ということなのか。

委員　　申し上げたCCRC特区というのは、CCRCという認定さえ取れば、無条件で適用されるということである。例えば、「高齢者」、「障がい者」、「児童」という各福祉分野を一つに集めて運営することも可能になる訳である。また、「空き家」ということでは、建ぺい率や容積率というのが緩和されるということである。現在、パッケージにして突破しようとしているところである。これは、別に佐久市だけということではなく、全国のCCRCをやろうとしているところは対象になる可能性がある。CCRCをやろうとした場合、ぶつかる課題を想定して、「こういったことは許可してほしい」という案件を提示しているところである。

座長　　たくさんの自治体がCCRCをやりたいと手を挙げている訳であるが、手を挙げれば全部特区になるということなのか。

委員　　そういうことである。CCRCという認定を受ければ、特区の特例が適用される。CCRCは、政府としても目玉にしており、魅力のあるものにしていかなければいけないと考えている。そこには、難しいハードルがあるが、越えられるようにしていくという段階である。CCRCの素地について、「佐久市はレベルが高い」というのは、内閣府もよく分かっている。

座長　　良く解釈すれば、「この構想(案)を持っていけば、CCRCには認定されるだろう」ということか。

委員　　大丈夫ではないか。

事務局　　交付金というのは、毎年新しい年度にメニューというのが出てくる訳であるが、CCRCに関して、継続的支援というのがあるのか。

委員	あるはずである。
事務局	CCRCに関しては、国や県からの支援を、ある程度、継続的にいただきながら進めていかないと、やはり限界があると思う。
市長	現状としては、緊張感を持って進めていきたい。予算的攻防という面でも、地方創生に関する要求1000億円というのは、「他の省庁では出来得ないものを、この地方創生でやっていく」ということだと思う。「他の補助金に当てはまるものは、財源振替等で引っ張ってきて充てるのはダメ」ということになれば、特色のある取り組みというのを求められる。そういった考えで臨んでいきたい。
委員	ただ、いくら補助金をもらっても、実際に、この構想（案）にあるように、市民が、生き生きと色々な社会的活動に参加し、結果として、「健康なまち」になっていくということを実現しないことには意味がない。失敗事例も今まで山ほどある中で、構想自体は、この程度の書き込みで良いということであるが、私が申し上げたいのは、「仕掛け作り」というのが大事であり、市としては、「様々な引き出しを持って対応していく」というのも大事である。
座長	今回、この検討会で検討する構想（案）の内容とすれば、概ねこの内容で良いということであるが、このままで止まってしまっても困るので、地域の方を巻き込んだ形で、具体的な計画を策定していただきたい。実際に移住を検討する高齢者の立場からすると、具体的なモデルケースが見えた方が良いという気もする。その辺も踏まえながら、検討いただきたい。
事務局	国の方で、CCRCを「生涯活躍のまち」、「プラチナコミュニティ」ということで決定されたが、本構想の名称について、ご意見を伺えればと思う。
座長	アイデアやご意見があれば、事務局に連絡いただきたい。
事務局	資料2の「臼田のまちづくり」については、今までの中で、関連のご意見もいただいております、時間もだいぶ経過しているので、協議は省略させていただく。
委員	臼田の商店街というのは、現状はどういった状況か。大分クローズになってしまっているのか。
市長	そういった状況はある。
委員	それならば活用の可能性があるということである。



《 4 その他 》

事務局 いただいたご意見を参考にして、庁内でも内容の調整を行い、詰めていきたいと思う。今回で、本検討会は最終となるが、本事業の推進に当たり、ご指導・ご相談させていただければと考えている。

《 5 市長御礼あいさつ 》

《 6 閉会 》